

処理年度	令和X - 1年度(前期)	令和X年度(当期)	
データ	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">確定申告</div>	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">四半期・月次試算 (第1Q)</div>	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">四半期・月次試算 (第2Q)</div>
法人・銘柄の状況	<p>&lt; 法人状況 &gt; 親法人 子1 子2(翌期首に子2と合併予定) 子3(翌期首に子2との合併により消滅予定) 子4(期中離脱)</p> <p>&lt; 保有銘柄 &gt; 銘柄1 銘柄2 銘柄3(保有法人なし) 銘柄4(保有法人なし)</p>	<p>&lt; 法人状況 &gt; 親法人 子1 子2(合併法人) 子3(消滅法人) 削除してOK 子4(前離離脱)</p> <p>&lt; 保有銘柄 &gt; 銘柄1 銘柄2 銘柄3(保有法人なし) 削除漏れ 銘柄4(保有法人なし)</p>	<p>&lt; 法人状況 &gt; 親法人 子1 子2 子3(消滅法人) 削除してOK 子4(前離離脱)</p> <p>&lt; 保有銘柄 &gt; 銘柄1 銘柄2 銘柄3(保有法人なし) 削除漏れ 銘柄4(保有法人なし)</p>
処理	<p>① 確定申告処理後、年度更新で翌期のデータを作成(四半期・月次試算(第1Q))した。 (当期に離脱した法人や誰も保有しなくなった銘柄(赤字)は、翌期の最初のデータで削除予定( 1))</p> <p>1 不要な法人や銘柄がマスターに残っていても、不要な法人は通算対象外( 2)とし、銘柄はどの法人にも紐づけないことで、申告書の作成等に影響はありません。</p> <p>2 メニュー101の[基本情報の登録]WSで離脱する法人の行をダブルクリックし、[基本情報①]タブの[グループ通算対象]欄を「対象外」にします。</p>	<p>データ作成直後( )に、前期に期中離脱した子4(前期離脱)と、銘柄4(保有法人なし)をマスターから削除し、マスターを確定した。</p> <p>その後、銘柄3(保有法人なし)を削除し忘れていたことや、子3(消滅法人)を残しておく必要性がないことに気づいたため、これらを削除するためにマスターを解除したが、当該データで既にマスターを一度確定済のため、不要な法人や銘柄を削除できなかった。</p>	<p>新しいデータを作成し、前のデータで削除し忘れた銘柄3(保有法人なし)や子3(消滅法人)をマスターから削除し、マスターを確定した。</p>

赤字は不要なためマスターから削除可能なもの

青字は削除した不要なもの

紫字は注意点